

たんちょう通信

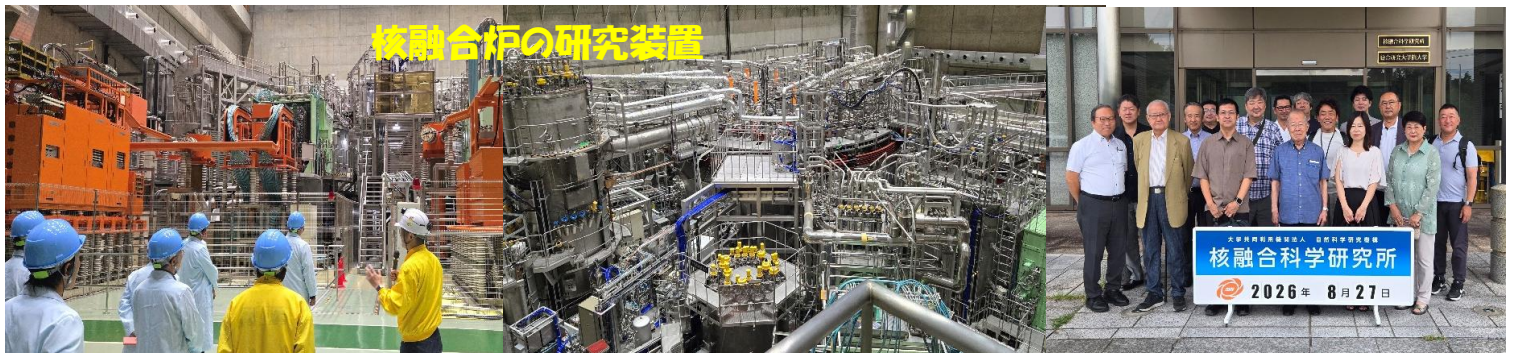
～ 第 136 号 ～



丹羽孝直

こんにちは、丹頂ガスの丹羽です。いつも「たんちょう通信」をお読みくださり誠にありがとうございます。私には3歳上の姉がいます。30年前に結婚をしました。義理の兄は当時、大学院で工学の研究をされており、卒業と同時に結婚式を挙げて、そして、そのまま岐阜県土岐市にある「核融合科学研究所」で研究を続けています。30年前、義理の兄は「核融合は未来の夢のエネルギーです。安全で完全なクリーンエネルギーだけど、実用化するには、まだ半世紀はかかるだろう。」と話していたことを覚えています。偶然にも今年8月に「青年塾」リーダーセミナーでこの「核融合科学研究所」を訪問する機会を頂きました。「核」の名が付くと「原発」をイメージしますが、原理は真逆です。簡単に説明すると、「原子力発電」はウランなど重い「原子核が分裂して」エネルギーを出します。片や「核融合」は水素など軽い「原子核を融合して」エネルギーを出します。そこには、高レベル放射性廃棄物はありません。燃料の重水素は海水から取り出せて、資源がほぼ無尽蔵にあります。そして、CO2は排出しません。何よりも「原子力発電」(核分裂)のような暴走や、制御不能になるリスクが極めて低いようです。「核融合」の研究が始められたのは1950年代にまで遡ります。実用化するのに100年も要する一つの要因は、この核融合エネルギーが「太陽の熱」と同じ仕組みだからです。すなわち、「地上に太陽をつくる」ということです。「核融合炉」では、1億度以上の「超高温のプラズマ」を作ります。それに耐えられる素材と高い密度を保つ溶接技術が必要です。現在、日本の研究と技術は世界的にも進んでいます。しかし、実用化するには20年はかかるようです。その様な中で、近年アメリカのビッグテック(マイクロソフトなど)が数十兆円の規模で民間投資をしており実用・産業化を急ピッチで進めています。この恩恵で技術革新は進み、実用化が早まるかもしれませんが、民間投資だけに「開発された技術」の特許が取得されて私物化される可能性もあります。これまでの研究の成果は世界中の学者が「学会」で発表して、お互いが共有し共に研究開発を進めてこられました。しかし、今後民間の一企業が独占して技術革新を掌握する可能性もあると義理の兄が懸念しておりました。ちょうど今、日曜劇場のドラマ「VIVANT」で「核融合」の話が取り上げられており、ドラマの中でも、中国の裏組織「シンシー」が「核融合」の技術を独り占めにしようと企んでいます。義理の兄も「テレビドラマのお陰で、核融合の認知が広がって良かったけど、しかしその反面、この様なことがあると核融合の進展に支障をきたす。」と話していました。私は2050年のカーボンニュートラルは、この未来の夢のエネルギーが実用化されることで実現すると思います。その時は、化石燃料を使うことも無くなり、弊社がお客様へ「プロパンガス」を販売しなくなることでしょう。しかし、創業者が74年前に大八車で醤油と炭、練炭を近隣住民へ届けていた頃から今も変わらず「お客様の生活」に必要な物をお届けするのが弊社の仕事です。売るものは「手段」であり、大切なことはお客様への「お役立ち」です。時代が変われば、取り扱うものも変わることでしょう。弊社は常日頃からお客様の「お困りごとと解決」を一番大切にしております。「住まいのお困りごと」はどうぞ丹頂ガスにご相談ください。これからも引き続きよろしく願いいたします。感謝

核融合炉の研究装置





たんちょう隊の公式LINEはこちら!



住まいのちょっとしたお困りごとの
解決方法をお知らせしています。



公式Instagramはこちら!

たんちょう隊の活動や日常の様子を
投稿しています。フォローお願いします!



TANCHOGAS



皆さまこんにちは! 入社34年目の石井 正人です。
僕は、ガス工事を担当しております。入社して半年くらい
経った頃、次の日の工事の段取りを任されました。
必要な道具や部材を車に積み、最終チェックをきちり
したにも関わらず、翌日、現場に到着してセメントがない
ことに気がつきました。セメントはガスの復旧作業に使う
ため、小慌てて上司に報告すると、「お前が忘れたんやですぐに買って来い!」
と言われました。「えっ!」と思いつつも、自分が積み忘れたので仕方なく
買いに行きました。その時僕は16歳、まだ運転免許を持っていなかった
ので、歩いていくしかありませんでした。3km先のホームセンターまで、行きは
走って10分ほどで向かいました。セメントは1袋40キロ入りだったので、帰りは
それを肩に担いで、23号線も40分かけて歩きました。とても重かったので
途中で何回も休憩しました。悔しいのと、辛い気持ちでいっぱいでした。
やっと現場に到着して、上司に報告したところ「この気持ちも忘れるなよ」
と言われました。その時、この悔しさを一生忘れないようにしようと決心し
ました。今ではハワハラ扱いされるのでありえなりことですが、当時の職人
気質の人はとても厳しかったです。

防災
コーナー

停電に備えよう

停電はいつ起こるか分かりません。防災グッズとして「ライトを備えておこう!」と
用意されている方も多いのではないのでしょうか。しかし、防災ライトは大きく3つの種類に
分かれ、それぞれ使うのに適した場面が異なります。

ヘッドライト /

両手が自由になるので、
夜間の避難、移動に
最適です。



ランタン /

お部屋全体を360度
明るく照らします。
停電時の生活照明に
最適です。



懐中電灯 /

遠くまで照らせるので、
確認、点検作業に
最適です。



ライトも、正しく選んで事前に備えておくことがいざというときの安否につながり
ます。ぜひ、この機会に見直してみてもいかがでしょうか。